

『万国地誌階梯』の書誌学的考察

末森 明夫

関東豊史研究会

あらまし: 私立金沢盲啞院の初代院長を務めた聾者、松村精一郎(嘉永 2 年～明治 24 年(1849-1891))は、明治 8 年(1875)に抄訳本地理書『万国地誌階梯』を脱稿しており、この本は明治 20 年(1887)には旧文部省教科書検定の認可を受けている。本稿は現存する『万国地誌階梯』の写しの書誌学的整理を通して、「該当本の初版刊行は明治 9 年(1876)以降であり、明治 11 年版が初版である可能性もあること」、「該当本の見返しや奥付の体裁は、 α 群及び β 群に分けられること」、「該当本の主要種本は『Mitchell's primary geography』であること」を明らかにすると共に、松村精一郎を明治時代初期における洋学者として再評価することにより、明治時代の聾者群像に新たな視点を付与することを眼目とする。

1. 序論

1-1 私立金沢盲啞院

私立金沢盲啞院は日本における 4 番目の盲啞児教育施設として、明治 13 年(1890)石川県金沢(現金沢市)に設立された[石川県教育史編纂委員会 1974]。幕末から明治時代初期における金沢は、東京、大阪、京都、名古屋に次ぐ日本第 5 位の都市であった[補注 1]。

私立金沢盲啞院の初代院長を務めた松村精一郎は、6 才より 7 年間に渡る闘病を経て失聴した聾者であり、日本において初めて盲啞児教育施設の最高運営責任者を務めた聾者として再評価されている[富山県西礪波郡役所 1909, 石崎 1955, 福光町史編纂委員会 1974, 北野 1979, 上田 2004, 橋 2006, 2008]。

1-2 蘭学、洋学、及び漢籍

先行研究において、幕末から明治時代初期における蘭学、洋学、並びに漢籍による海外の特殊教育事情の紹介が、明治時代初期における盲啞教育関連施設の設立に大きな影響を及ぼした旨が明らかにされている[中野・加藤 1967, 宮地 1991]。また明治時代初期の初等教育施設においては、翻訳本が教科書として用いられる傾向があり、とりわけ地理分野においてはその傾向が顕著であった[窪田 1987, 川村 2003]。

1-3 『万国地誌階梯』

一方、先行研究において、松村精一郎が私立金沢盲啞院の設立に先立つ明治 8 年(1875)、ミッチェルの地理書の抄訳本『新選万国地誌階梯』をしたための旨が紹介されている[富山県西礪波郡役所 1909, 石崎 1955, 福光町史編纂委員会 1971, 北野 1979, 上田 2004, 橋 2006]。この本は増補校訂を経て、明治 20 年(1887)には旧文部省の教科書

検定の認可を受けている[図 14][福光町史編纂委員会 1971, 北野 1979]。

しかしながら、先行研究において『新選万国地誌階梯』の異版群の書誌学的整理が十分に行われたとは言い難い面が残る。そこで現存する該当本の書誌学的整理を行うと共に、松村精一郎を明治時代初期における洋学者として再評価することを試みた。

2. 方法

該当本の閲覧は以下の方法に拠った: (1) 国会図書館近代デジタルライブラリー[補注 2], (2) 所蔵図書館来館: 国会図書館, 筑波大附属中央図書館, 一橋大附属図書館, 及び (3) 所蔵図書館より入手した写し: 名古屋大附属図書館, 徳島大附属図書館, 岐阜大附属図書館。

3. 結果

3-1 『万国地誌階梯』異版群

紀要論文『私立金沢盲啞院に関する一考察 ―設立者松村精一郎を中心に―』[北野 1979]の参考文献には明治 8 年(1875)に刊行された『万国地誌階梯』が富山大図書館に所蔵されている旨が記載されている[補注 3]。しかし、富山大学附属中央図書館に問い合わせたところ、「該当文献は富山大附属中央図書館に所蔵されていない。但し、『新選万国地誌階梯』が富山県立図書館に所蔵されている。」との回答を頂いた。

そこで Webcat, CiNii 等の文献検索ソフトを用いて『万国地誌階梯』の検索を行い、国立国会図書館より明治 11 年版, 明治 14 年版, 及び明治 19 年版, 名古屋大, 筑波大, 及び一橋大より明治 15 年版, 徳島大及び岐阜大より明治 20 年版を得た。これらの表紙・見返し, 序文, 凡例, 目録, 本文, 及び奥付を比較し整理を行った結果を表 1-2 及び

図 1-17 に示す。

3-1-1 体裁の分類

得られた表紙、見返し、奥付の写しを比較し整理した結果、名古屋大、筑波大、及び一橋大、所蔵版はほぼ同一版(明治 15 年版)、徳島大及び岐阜大所蔵版も同一版(明治 20 年版)であると判断したことにより、得られた写しは 5 種類に分けられるものと判断した。

5 種類の写しの表題は下記の通りであった[表 1]。

- 明治 11 年版 『万国地誌階梯』
- 明治 14 年版 『校訂万国地誌階梯』
- 明治 15 年版 『増補校訂万国地誌階梯』
- 明治 19 年版 『刪定万国地誌階梯』
- 明治 20 年版 『新選万国地誌階梯』

このことより、原題は『万国地誌階梯』である可能性が高いものと考えられた。『富山県西礪波郡紀要』[富山県西礪波郡役所 1909]では『新選万国地誌階梯』という書名が書かれており、明治 42 年(1909)の時点で既に『万国地誌階梯』の表題における混乱が生じていることが窺われる。

見返し及び奥付の体裁の比較より、見返し及び奥付の体裁は α 群と β 群に分けられる可能性が窺われた[表 1, 図 1-12, 図 14]。

- α 群:明治 11 年版, 14 年版
- β 群:明治 15 年版, 19 年版, 20 年版

明治 11 年版及び 14 年版には刻数は記載されていないが、明治 15 年版には「七刻」、明治 19 年版および 20 年版には「八刻」と書かれている[図 7, 図 9, 図 11]。このことより、「 α 群:一刻～六刻」、「 β 群:七刻～八刻」に分類され得ることが窺われた。

一方、本文の体裁は明治 11 年版のみが「24 字×9 行」であり、その他の版は総て「24 字×10 行」であった。明治 11 年版が 105 葉であるのに対し、その他の総ての版が 94 葉であるのはこの体裁の違いによるものと考えられる。

3-1-2 刊記

奥付に含まれる刊記に記載されている書林は各年により大きく異なっている[図 2, 5, 8, 10, 12]。明治 11 年版は東京府、秋田県、宮城県、山形県、福島県傘下の書林に限られているものの、明治 14 年版になると青森県傘下の書林等が加わり、明治 19 年版では愛知県傘下の書林の記載が見られる。このことより、『万国地誌階梯』が東京と東北地方を中心にしながらも、かなり広い地域に渡って販売されたことが窺われる。

3-2 『万国地誌階梯』種本群

『万国地誌階梯』の種本群を形成するものと推定される 3 冊の洋書

- 『Mitchell's school geography』[Mitchell 1845, 1860],
- 『Mitchell's primary geography』[Mitchell 1851],
- 『Mitchell's New School Geography』[Mitchell 1872]

と、『万国地誌階梯』(明治 11 年版)の目録の対照を行った。『万国地誌階梯』(明治 11 年版)の目録及び『Mitchell's primary geography』の目録を対照した結果を表 2 及び図 1, 図 15, 図 16, 図 17 に示す。

『Mitchell's primary geography』[Mitchell 1851]の目録は「総論」「米国」「中米」「北米」「南米」「欧州」「アジア」「アフリカ」「オセアニア」「社会及び地学」の順に書かれている。一方、『万国地誌階梯』(明治 11 年版)の目録は「総論」「アジア」「欧州」「アフリカ」「オセアニア」「北米・米国」「中米」「南米」の順に書かれており、項目の内容自体はほとんど一致するものの、項目の順番は日本での教育に合わせた内容になっていることが窺われた[表 2]。

尚、先行研究においてミッチェルは英国人と紹介されている[石崎 1955, 福光町史編纂委員会 1971, 北野 1979, 上田 2004, 橋 2006]。しかし、印刷物における典拠は得られなかったものの、「ミッチェルの父は英国スコットランド移民であり、ミッチェル本人は米国生まれの米国人である」との資料がある他、ミッチェルは米国で地理書を刊行していることから、ミッチェルは米国人と見なすのが妥当であるものと考えられた[補注 4]。『富山県西礪波郡紀要』[富山県西礪波郡役所 1909]では、ミッチェルは「瑪氏」とのみ書かれているものの、随筆「聾学者松村西莊先生」[石崎 1955]では「英人瑪氏」と書かれている。松村精一郎は『万国地誌階梯』の他に英国で用いられていた地理書の翻訳も行っており[石崎 1955]、この辺りに誤謬の一因がある可能性も考えられた。

4. 考察

4-1 版及び刷

4-1-1 初版

『万国地誌階梯』の得られた写しにおいて最も古いものは明治 11 年版(明治 11 年 9 月印行)であり[図 1]、この版には「中村正直序」が寄せられている。この序文には「明治 9 年 9 月 5 日」という日付が記されており[図 13]、この序文は初版初刷にも掲載されたものと考えるのが自然である。このことより、初版初刷は明治 9 年 9 月以降に刊行されたもの

と考えられた。

更に、『富山県西礪波郡紀要』[富山県西礪波郡役所 1909]及び『福光町史』[福光町史編纂委員会 1971]の『万国地誌階梯』に関する記述を対照した結果[補注 5]、『富山県西礪波郡紀要』の該当箇所からは「明治 8 年(1875)に松村精一郎がミッチェルの地理書の抄訳を終えたこと」が窺えるのみであり、明治 8 年(1875)『万国地誌階梯』初版が刊行されたと判断することはできないものと考えられた。

以上の考察により、先行研究において「『新選万国地誌階梯』が明治 8 年(1875)に刊行された」とする記述は誤りであるものと考えられた。尤も、初版初刷は明治 8 年(1875)に刊行されたものの、中村正直の序文は掲載されず、明治 9 年(1876)以降の異版、もしくは初版後刷から掲載された可能性も残る。この辺りは明治 9 年(1876)あるいは明治 10 年(1877)に刊行されたものが現存するかどうかの探索も望まれる。

『万国地誌階梯』の度重なる刊行に伴う表題の変化(「校訂」「校訂増補」「刪定」「新選」)は、版の改編や板元の販売戦略といった様々な事情を勘案する必要があるものとも考えられる。

4-1-2 分類

明治 14 年版では本文体裁が変化し、全体の葉数が減っていることから、明治 11 年版と明治 14 年版は α 群において更に 2 次分類を行える可能性があるものとも考えられる。明治 11 年版が本当に初版であるかどうかの確認と併せて、明治 12 年、あるいは明治 13 年に刊行されたものはないのかどうかの探索も望まれる。

更に、名古屋大、筑波大、及び一橋大の所蔵版はいずれも明治 15 年版と見られるが、これらの版の異同を詳細に検討し、異版異刷であるかどうかの見極めを行うことも望まれる。このように、見返し、奥付からは大まかな分類の方向付けはできたものの、 α 群及び β 群といった一次分類という作業仮説の下に、子細に渡る書誌学的解析を行うことが望まれる。

また『万国地誌階梯』には『万国地誌階梯字解』が併せて刊行されており、この本も様々な版が散見される。『万国地誌階梯字解』についても書誌学的解析を行い、『万国地誌階梯』の書誌学的解析と併せて包括的な検討を行うことも望まれる。

4-1-3 種本

従来『万国地誌階梯』は『Mitchell's school geography』

[Mitchell 1845, 1860]の抄訳であるという見解が採られていた。しかし、『万国地誌階梯』の目録は『Mitchell's primary geography』[Mitchell 1851]の目録とは十分一致しているものの、『Mitchell's school geography』などの目録とはあまり一致しなかった。また、本文自体も『Mitchell's primary geography』の本文を忠実に翻訳した形になっていることが窺われた。

このことより、『万国地誌階梯』の主要種本は『Mitchell's primary geography』であり、『Mitchell's school geography』[Mitchell 1845, 1860]や『Mitchell's New School Geography』[Mitchell 1872]は最新の情報も加味すべく参照されたものと考えられる。すなわち、『万国地誌階梯』は典型的な情報集成型抄訳本であることが窺われた。

4-1-4 校閲

明治 11 年版は「校閲人青森県師範学校校長藤田利勝、翻訳松村精一郎、出版人江島伊兵衛」の体裁を採っている[図 1]。藤田利勝は明治 9 年(1876)5 月、青森県師範学校校長に転職しているが、それまでは東京外国語学校の教員を勤めていた[補注 6]。

明治 8 年(1875)	松村、抄訳原稿を上梓
明治 9 年(1876) 5 月	藤田、青森へ転勤
明治 9 年(1876) 9 月	中村、序文を上梓
明治 11 年(1878)	『万国地誌階梯』刊行

上記より、明治 8 年(1875)には松村が抄訳原稿を脱稿し、明治 9 年(1876)には中村が序文を上梓したものの、藤田の青森県師範学校への転勤などの事情が重なり、刊行が明治 11 年(1878)に延びてしまったことも考えられる。

4-2 目録構成

種本の目録及び『万国地誌階梯』の目録は目録項目こそほぼ一致しているものの、目録項目の順序は大きく異なっている。『Mitchell's primary geography』では 2 番目に挙げられている「米国」が『万国地誌階梯』では後半に写され、『Mitchell's primary geography』では後半に置かれている「アジア」が『万国地誌階梯』では 2 番目に挙げられている。辺りは、抄訳本が単なる抄訳に留まらず、国内の教育事情に応じて適宜編纂されるという工夫が感じられる。また、「アフリカ」「欧州」及び「オセアニア」が「アジア」に続く形で配置され、「北米」及び「南米」よりも先立つ形になっているのは、当時の国内の洋学者たちの国際見解を反映したものであるのか、興味深いものが窺われる。

また目録には現在は消滅した国も散見され、『万国地

誌階梯』の書誌学的整理にあたっては、当時の国際事情などを丁寧に整理した資料の作成も望まれる。

4-3 蘭学・洋学及び漢籍と松村精一郎

金沢盲啞院が明治16年(1883)に閉院された後、現在の石川県立豊学校に連なる私立金沢盲啞学校が新たに設立されたのは、実に25年後の明治41年(1908)のことになる。明治10年代から30年代における盲啞教育の一種の空白期間を考慮しても、松村精一郎の先駆性は瞠目すべきものがある。

このような松村精一郎の先駆性は、卓越した洋学知識及び漢籍に裏付けられたものであり、私立金沢盲啞院と松村精一郎という希有な事象を考察するにあたっては、松村精一郎は裕福な商家に生を受けた豊者であるというような面でのみ捉えるのではなく、洋学並びに漢籍という松村氏の多様な人間像を包括的に捉え、多様な視点に立った考察を図ることが望まれる。そしてそのような姿勢は、明治時代初期における豊者群像にも新たな視点を提供するものと期待される。

5. 結論

本稿において、情報集成型抄訳本『万国地誌階梯』の異版群の書誌学的整理及び考察を行った。

1. 該当本の見返し及び奥付の体裁は α 群及び β 群に分けられるものと考えられる(一次分類)。
2. 該当本の初版刊行は明治9年(1876)以降であることは確実であり、明治11年版が初版である可能性も考えられる。
3. 該当本の主要種本は『Mitchell's primary geography』である可能性が高いものと考えられる。

6. 補注

1. 明治17年時における人口:京都府85万人、大阪府163万人、東京府115万人、石川県73万人。
2. 近代デジタルライブラリー: <http://kindai.ndl.go.jp/>
3. 参考文献39『新撰万国地誌階梯』(1875) 富山大学図書館 [北野1979]
4. <http://www.raremaps.com/makers/mitchell.html> の冒頭には「Samuel Augustus Mitchell was born in Bristol, Connecticut on March 20, 1792. His father emigrated from Scotland in 1773.」と書かれている。
5. 『富山県西礪波郡紀要』[富山県西礪波郡役所1909] p508:「明治八年瑪氏の地理書を訳して新撰万国地誌階梯

を梓行せり」。

『福光町史』[福光町史編纂委員会1971] p408:「明治八年に英国人ミッチェル原著の地理書の翻訳を終え、『新撰万国地誌階梯』と題し、一九年三月東京の白楽圖書林で出版翌年六月小学校教科用図書として文部省の検定済になった。」。

『私立金沢盲啞院に関する一考察—設立者松村精一郎を中心に—』[北野1979] p2:「明治8(1875)年、英人ミッチェル原著の地理書を翻訳、「新撰万国地誌階梯」と題し白楽圖書から出版。」

6. 藤田利勝:明治9年(1876)5月、東京外国語学校教員より青森県師範学校校長兼教諭に転勤。明治14年(1881)8月、校長を退任。

7. 参考文献

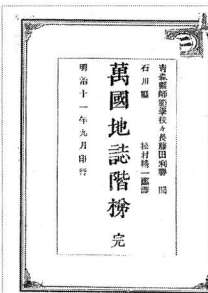
- 石川県教育史編纂委員会(1974)『石川県教育史』。
- 石崎直義(1955)「豊学者松村西荘先生」『越中史壇』, 5, 42-47。
- 上田伸一(2004)「西村西荘」『ふくみつを築いた人たち(教育編)』, 12-15。
- 川村博忠(2003)「明治初期の文明開化と地理教育」『総合人間科学』, 3, 19-24。
- 北野与一(1979)「私立金沢盲啞院に関する一考察—設立者松村精一郎を中心に—」『特殊教育研究』, 17, 1-8。
- 窪田祥宏(1987)「日本近代教育の成立と地域性—埼玉県における中等教育を例として(教育学科)」『日本大学人文科学研究紀要』, 351-365。
- 第13回ろう教育を考える全国討論集会実行委員会(2001)「石川のろう教育の始まりと19世紀のろう教育」『ろう教育の“明日”を求めて(第13集)』。
- 橋勇一、山本靖光、種田忠繁(2006)「日本初のろう者校長!松村精一郎の研究」『第8回日本豊史学会長岡大会報告書』, 4, 68-70。
- (2008)「日本初のろう者校長!松村精一郎の研究」『第10回日本豊史学会富山大会報告書』, 6, 86-88。
- 富山県西礪波郡役所(1909)『富山県西礪波郡紀要』。
- 中野善達、加藤康昭(1967)『わが国特殊教育の成立』。
- 福光町史編纂委員会(1971)『福光町史』。
- 宮地哉恵子(1991)「幕末期における海外情報の受容家庭—蘭書の輸入と受容形態をめぐって—」『参考書誌研究』, 39, 1-20。
- Mitchell, S. (1845, 1860) *Mitchell's school geography*.
- Mitchell, S. (1851) *Mitchell's primary geography*.
- Mitchell, S. (1872) *Mitchell's New School Geography*.

【表 1】『万国地誌階梯』異版群刊記における主要改正点

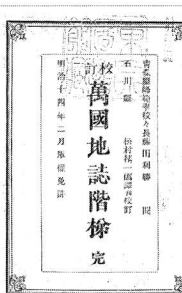
異版群	版名	表題	版權免許	校閲者等	所蔵
α	明治 11 年版	万国地誌階梯	明治 11 年 8 月 23 日御届 明治 11 年 9 月印行	青森県師範学校校長 藤田利勝 関 松村精一郎 訳	国会図書館
α	明治 14 年版	校訂 万国地誌階梯	明治 14 年 2 月 24 日版權免許	青森県師範学校校長 藤田利勝 関 松村精一郎 訳兼校訂	国会図書館
β	明治 15 年版	増補校訂 万国地誌階梯	明治 14 年 2 月 22 日版權免許 明治 15 年 3 月 7 刻 明治 15 年 4 月 9 日再版御届 明治 15 年 4 月 10 日製本改御届 明治 15 年 4 月 20 日改題御届	青森県師範学校校長 藤田利勝 関 松村精一郎 訳兼校訂	名古屋大 筑波大 一橋大
β	明治 19 年版	刪定 万国地誌階梯	明治 14 年 2 月 24 日版權免許 明治 19 年 2 月 24 日改題 明治 19 年 3 月 8 刻	荒井郁之介 関 松村精一郎 訳	国会図書館
β	明治 20 年版	新選 万国地誌階梯	明治 14 年 2 月 24 日版權免許 明治 19 年 3 月 8 刻 明治 20 年 5 月 13 日改題 明治 20 年 6 月 13 日御検定済	荒井郁之介 関 松村精一郎 訳	徳島大 岐阜大

【表 2】『万国地誌階梯』目録及び『Mitchell's primary geography』目録の対照

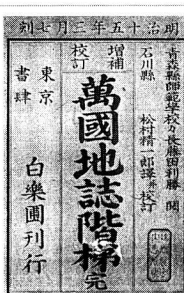
万国地誌階梯	葉	Mitchell's primary geography	頁	スイス	51	Chili, Buenos Ayres, etc.	84
地理学の原由及び定説	1	Of the Cardinal Points	7	ドイツ	52	History of South America	87
水陸の区分	2	Of the Earth	8	オーストリア	53	Europe	89
人種の区別	5	Of the Surface of the Earth	9	プロイセン	54	Map of Europe	93
太州の区画	6	Of the Water on the Earth	10	トルコスタン及び	55	Sweden and Norway, Russia, etc.	94
政体	7	Of Rivers	11	アフガニスタン			
教門	8	Of the Land	12	ギリシャ	56	Poland, Denmark Holland and Belgium	97
地球の形状及び運動	10	Divisions of the Land	13				
経緯度	11	Shape and Size of the Earth	15	ヨーロッパ諸島	57	Great Britain, England, Wales	98
氣候及び物産	14	Motions of the Earth	16	アフリカ	58	Scotland, Ireland, &c	101
動物	16	Of Climate etc.	17	バーバリー	59	Spain, Portugal, and Germany	104
植物	17	Production of the Earth	19	エジプト	61	Switzerland and Italy	106
鉱物	18	Of the People that inhabit the Earth	21	サハラ大砂漠	62	Ionian Republic, Greece & Turkey	109
東半球		Political Divisions	22	ヌビア	63	Map of Central and Southern Europe	113
アジア	19	Of Maps	24	アビシヤ	63	History of Europe	114
大日本帝国	20	Grand Divisions of the Earth	25	スーダン	64	Asia	116
志那那帝国	23	Of the Ocean	26	シエラレオネ		Asiatic Russia, Turkey, and Syria	118
朝鮮	24	Map of the Western Hemisphere	29	リベリア	64	Palestine, Arabia, Persia, &c	121
満州	24	Map of the Eastern Hemisphere	30	カフラリア	65	Tartary, India, and Hindoostan	123
モンゴル	25	America	32	セネガル	66	Birmah etc., China, and Japan	126
伊黎	25	North America	34	南方アフリカ	66	Map of Asia	129
チベット	26	United States	36	西方諸国	67	History of Asia	130
インド	26	United States continued	38	アフリカ諸島	68	History of Asia continued	132
ベトナム	27	Map of the United States	41	大洋州	69	Africa -Barbary and Egypt	134
シヤム	27	Eastern States	42	マレーシア	70	Nubia, Senegambia, and Guinea	137
ビルマ	28	Middle States	44	オーストラリア	71	Southern Africa &c	140
マラッカ	28	Southern States	47	ポリネシア	72	Map of Africa	143
ヒンズースタン	29	Western States	49	西半球		History of Africa	144
トルコスタン及び、 アフガニスタン	30	Western Territories	51	北アメリカ	73	Oceania	146
ベルシヤ	31	Map of the Eastern States	53	アメリカ合衆国	75	Polynesia	149
アラビア	32	Map of the Middle States	55	英領アメリカ	77	Map of Oceania	153
アゼルバイジャン	32	Map of the Southern States	56	メキシコ	79	Progress of Society	154
シベリア	33	Map of the Western States and Territories	59	中央アメリカ	80	Government	157
				西インド	81	Religion	160
				南アメリカ	84	Astronomy	163
アジア諸島	35	Greenland British America etc.	60	コロンビア	86	Solar System	164
ヨーロッパ	37	Mexico and Upper California	62	ベネズエラ	87	Of the Moon	166
イギリス	38	Guatemala and the West Indies	64	ギニア	87	Planets	168
ロシア帝国	41	Map of North America	67	ブラジル	88	The Planets	169
スウェーデン、ノルウェー	42	History of America	68	パラグアイ	89	The Planets and Comets	171
デンマーク	43	History of North America	70	ウルグアイ	89	Fixed Stars	176
オランダ	44	History of the United States	71	アルゼンチン	90		
ベルギー	45	History of the United States	74	パタゴニア	91		
フランス	46	History of the United States	76	チリ	91		
スペイン	47	South America	78	ボリビア	92		
ポルトガル	48	Map of South America	81	ペルー	93		
イタリア	48	New Grenada, Venezuela, &c	82	エクアドル	94		



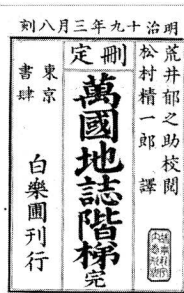
【図1】明治11年版 見返し
国会図書館所蔵



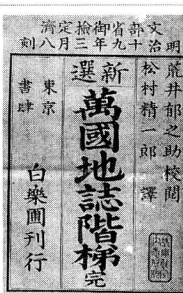
【図4】明治14年版 見返し
国会図書館所蔵



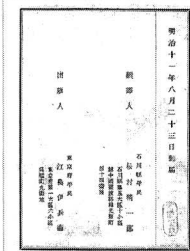
【図7】明治15年版 見返し
筑波大所蔵



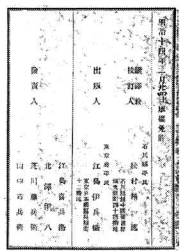
【図9】明治19年版 見返し
国会図書館所蔵



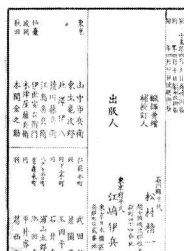
【図11】明治20年版 見返し
徳島大所蔵



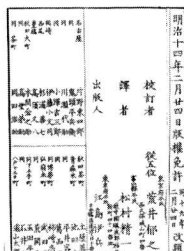
【図2】明治11年版 奥付1
国会図書館所蔵



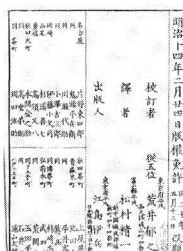
【図5】明治14年版 奥付1
国会図書館所蔵



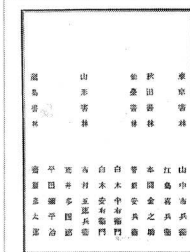
【図8】明治15年版 奥付
筑波大所蔵



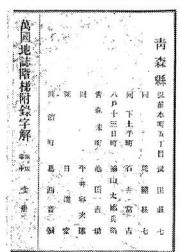
【図10】明治19年版 奥付
国会図書館所蔵



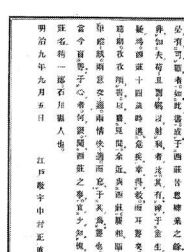
【図12】明治20年版 奥付
徳島大所蔵



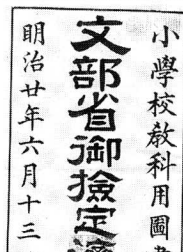
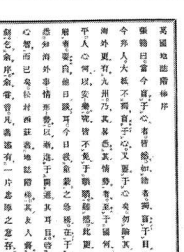
【図3】明治11年版 奥付2
国会図書館所蔵



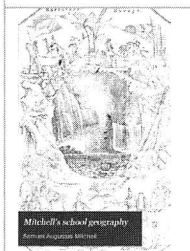
【図6】明治14年版 奥付2
酷寒図書館所蔵



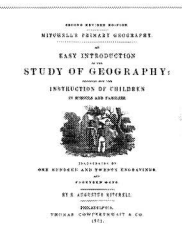
【図13】明治11年版 序文
国会図書館所蔵



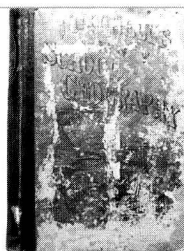
【図14】明治20年版 見返2
徳島大所蔵



【図15】『Mitchell's school geography』表紙



【図16】『Mitchell's primary geography』表紙



【図17】『Mitchell's New School geography』表紙

謝辞

本稿の執筆にあたり、ご指導ご鞭撻を頂いた「関東叢史研究会」の皆様方に深謝致します。

『万国地誌階梯』群の閲覧及び写しにあたり、ご協力頂いた国立国会図書館、名古屋大、筑波大、一橋大、徳島大、及び岐阜大の関係者方々に深謝致します。